

コード No. 10301

**Anti-Human  
ORP150 (Oxygen Regulated Protein, p150) (2F07) Mouse IgG MoAb**

容量 : 100 µg

- はじめに : ORP150 (150kDa Oxygen Regulated Protein) は、アストログリアから見出された新規ストレスタンパク質で小胞体に局在します。他のストレスタンパク質とは異なり glycosylation 阻害、熱ショック、カルシウムイオノフォア等では誘導されず、低酸素 虚血により誘導されることが報告されています。ヒト ORP150 cDNA は低酸素処理したアストロサイトーマ細胞株 (U373) からクローニングされ、999 アミノ酸からなり、C 末端に ER retention-like 配列を有しています。(文献 1) 虚血ストレス下にあった脳では、ニューロン、アストロサイトにおいて ORP150 の発現が増強されることが報告されています。また、培養系での実験において ORP150 を強制発現させたニューロンは低酸素ストレスに耐性になること、あるいは、ORP150 の発現を抑えた状態のアストロサイトはより感受性になることなどから、これらのストレスによる神経細胞死を保護する働きがあることが予想されています。(文献 2) また、低酸素ストレス条件下での損傷部位において、VEGF などの血管新生因子と共発現していることから、血管新生や損傷治癒を促進させる働きがあることも示唆されています。(文献 3) さらに、一部の乳がんにおいて高発現することも報告されており、腫瘍における機能も注目されています。(文献 4) 各種ストレスによる神経細胞障害、損傷治癒、各種腫瘍の研究に有用です。
- 免疫抗原 : GST-ORP150 (Leu 508 - Leu 999) のリコンビナントタンパク質
- 起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ  
(X63-Ag8.653×BALB/c マウス脾臓細胞)
- クローン名 : 2F07 サブクラス : IgG2a
- 精製方法 : Protein A による特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定  
: 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 約 5 µg/mL にて使用可能  
(ホルマリン固定、パラフィン切片 : マイクロウェーブ処理が必要)  
: ウェスタン・ブロッティング、約 1 µg/mL にて使用可能 (アストロサイトーマ細胞株 (U373))  
: 免疫沈降反応にて使用可能 (Native Form, Recombinant Form とも可能)
- 特異性 : TG マウス、KO マウスで確認 (免疫染色)
- 参考文献 : 1. Ikeda J. *et al.* Cloning and expression of cDNA encoding the human 150kDa oxygen-regulated protein, ORP150. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 230: 94-99 (1997)  
2. Tamatani M. *et al.* ORP150 protects against hypoxia/ischemia-induced neuronal death. *Nature Medicine.* 7: 317-323 (2001)  
3. Ozawa K. *et al.* Expression of the oxygen-regulated protein ORP150 accelerates wound healing by modulating intracellular VEGF transport. *J. Clin. Invest.* 108: 41-50, (2001)  
4. Tsukamoto Y. *et al.* Expression of the 150-kd oxygen-regulated protein in human breast cancer. *Lab. Invest.* 78: 699-706 (1998)